

2010年から始まったサッコミーバイ（ナミハタ）の産卵保護区。

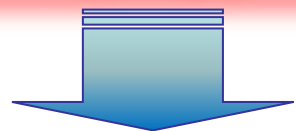
4年目になる今年は、海人にも調査に加わって頂き、保護区の効果を調べます！

サッコミーバイって？

サッコミーバイは、和名をナミハタという小型のハタの仲間です。沖縄県内でも八重山が漁獲量の9割を占める重要な漁場となっています。サッコミーバイは、小さなうちはメスとして卵を産み、大きくなるとオスに性転換する、産卵時に大きな群れを作る、といった面白い特徴を持っていますが、90年代以降、資源が減少傾向にあります。



ナミハタ（サッコミーバイ）
1990年代初頭
1日あたり約4kg獲れたのが



2010年代
1日あたり約3kgに減少...

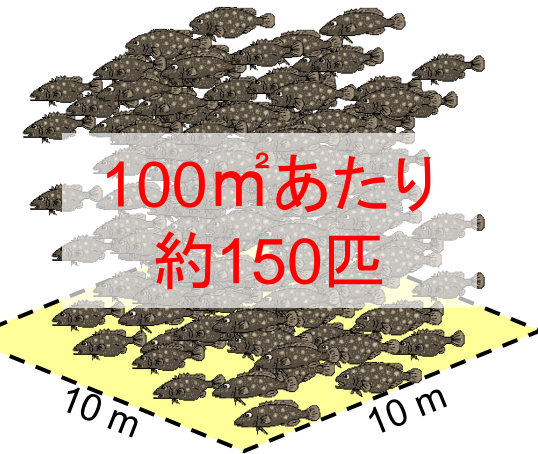
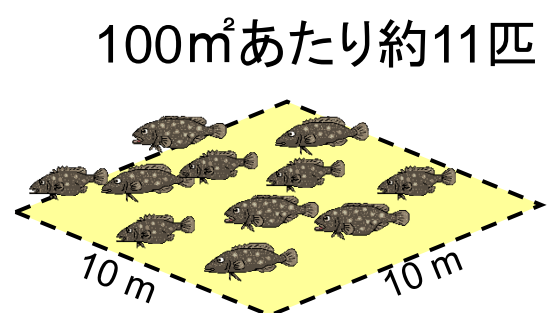
そこで、保護区が作られました！

八重山のミーバイを将来にわたって利用していくために、八重山漁協電灯潜り研究会では、平成22年から図の海域を保護区にする取り組みをスタートさせました。図のヨナラ水道は、八重山で最も大きな産卵群が集まるといわれる場所です。禁漁にする期間は、研究機関の調査データをもとに1回1週間程度と、非常に短期間なのも特徴です。



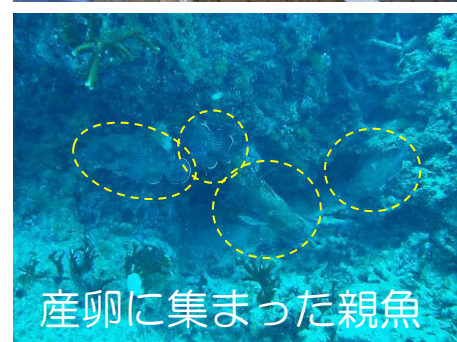
保護区期間中に調査をおこなったところ、産卵場に集まる親魚は、それまでの**10倍以上**に増加したことが確かめられました。つまり、産卵場で生み出される卵の量もそれだけ増えた、と考えられるのです。

産卵に集まる魚が増えました！



なぜ少なくなったの？

かつてはたくさん獲れたサッコミーバイ。どうして少なくなってしまったのでしょうか？様々な理由が考えられますが、大きな原因として、産卵に集まった親をたくさん獲り過ぎてしまったことが考えられます。魚は卵を産んで増えますから、卵を産む親を獲ってしまえば、魚が減るのは当たり前のことです。



さらに、平成24年からは、保護区の調査に海人も参加してもらっています。調査を通して、自分たちの海を守り育てていく様子を実感してもらっています。

